

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)阪和興業石橋社宅新築工事	階数	地上6F
建設地	大阪府池田市鉢塚	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	150 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年3月29日
敷地面積	3,939 m ²	作成者	浅井謙建築研究所 中塚
建築面積	1,190 m ²	確認日	2019年4月1日
延床面積	4,757 m ²	確認者	浅井謙建築研究所 矢野



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.4</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Qのスコア = 3.3</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.0</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 3.7</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LRのスコア = 3.3</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 3.9</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 2.9</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>企業社宅の計画である。住民の共生性を高める為、ラウンジ兼集会所や屋上共用スペースなど共用スペースの充実を図っている。</p> <p>また、隣接する公園側から建物を後退させてきた空を公園の緑と連続的に緑化することで周囲の景観に配慮するとともに、緑に囲まれた住環境を目指している。</p>	<p>その他</p> <p>東側隣地との境にある擁壁が古いものであることから、法面や擁壁を部分的に整備し、防災性を高めている。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>住戸を南面するように配置し、安定した採光を取り入れるとともに、断熱性能、遮音性能を高め、居住環境の充実を図った。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>大きく分けて2つの住戸プランを設け、カラーパリエーションも2タイプ計画。BLにはSKを設置するなど、デザインだけでなく維持管理面も考慮し、機能的な住環境を計画している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>外構の生垣や樹木は既存利用や移植を行い、既存環境の維持を図っている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>外皮性能を高め、省エネルギー等級4の取得を目指した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型の水栓の利用やリサイクル製品を採用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>敷地に接する道路が狭いことから、ゴミの敷地内収集や車寄せを設けることで、周辺の交通環境に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0029

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)阪和興業石橋社宅新築工事						
	建設地	大阪府池田市鉢塚						
	用途/区分	集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	建物の断熱性						4	
④	エネルギー削減						4	
⑤	自然エネルギー直接利用						○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.7	4	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				4.0	3	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				2.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.0	4	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.4	4	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	○	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	-	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項							